

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道9号 <small>きょうとにし</small> 京都西立体交差	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局		
起終点	自：京都府京都市 <small>うきょう さいいんつきそうちょう</small> 右京区西院月双町 至：京都府京都市 <small>にしきょう ごりょうつかのこしちょう</small> 西京区御陵塚ノ越町			延長	3.8km		
事業概要							
<p>一般国道9号は、京都府京都市を起点に山陰地方を横断し、山口県下関市に至る延長約640kmの幹線道路である。</p> <p>京都西立体交差は、京都市内において東西交通の主軸として重要な役割を担う一般国道9号の慢性的な交通混雑の緩和、定時性・信頼性の確保、安全で快適な環境づくり等を目的に計画された事業である。</p>							
H11年度事業化	H11年度都市計画決定 (H-年度変更)	H15年度用地着手	H14年度工事着手				
全体事業費	約321億円	事業進捗率	76%	供用済延長	1.0km		
計画交通量	37,000台/日						
費用対効果分析結果	B / C (事業全体)	1.1	総費用 (残事業)/事業全体	81/327億円	総便益 (残事業)/事業全体	351/351億円	基準年 平成23年
	(残事業)	4.3	事業費：73/319億円 維持管理費：7.9/7.9億円	走行時間短縮便益：326/326億円 走行経費減少便益：16/16億円 交通事故減少便益：8.3/8.3億円			
感度分析の結果							
【事業全体】 交通量：B/C=1.0～1.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.1～1.1 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.0～1.2 (事業期間 ±20%)				【残事業】 交通量：B/C=3.9～4.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.0～4.8 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.0～4.4 (事業期間 ±20%)			
事業の効果等							
<p>交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道9号の交通量は交通容量を超過しており、交差点の立体化により交通混雑の緩和が期待できる。 <p>交通安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 交差点の立体化により、車両事故が低減され交通安全の確保が期待できる。 交通量の減少により当該区間の安全性の向上が期待。(国道9号 五条葛野大路交差点:591件/億台扣、国道9号 千代原口交差点:933件/億台扣) <p>高度医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 長岡京市～京都第二赤十字病院の所要時間が短縮。(59分 52分) 向日市～京都第二赤十字病院の所要時間が短縮。(50分 43分) <p>日常活動圏の中心都市へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 亀岡市～京都市の所要時間が短縮。(63分 56分) <p>JR京都駅へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 亀岡市～JR京都駅の所要時間が短縮。(67分 60分) <p>沿道環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道の並行区間では騒音レベルが要請限度を超過。(千代原口地区：昼間73dB、夜間71dB) 							
関係する地方公共団体等の意見							
<p>京都市長の意見：</p> <p>一般国道9号京都西立体交差の事業区間のうち、千代原口地区は平成25年2月に千代原口交差点立体交差が開通し、千代原口交差点の慢性的な交通混雑が緩和されるとともに、周辺道路から一般国道9号への交通転換が見られるなど、事業効果が発現されています。</p> <p>引き続き、残る葛野地区の交差点の立体交差を進めることで、葛野地区の交通混雑の緩和と周辺地域の交通安全の確保が期待できることから、対応方針(案)の「事業継続」は妥当であると考えます。</p> <p>事業実施にあたっては、周辺地域の安全にも十分に配慮し、できる限り早い時期の完成を目指すとともに、一層のコスト縮減に努めるようお願いいたします。</p>							
事業評価監視委員会の意見							
<p>審議の結果、「一般国道9号京都西立体交差」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。</p>							

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

一般国道9号では、朝夕のラッシュ時を中心に交通混雑が発生。事業区間の交通量は依然として交通容量を超過している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成11年度に事業化、用地進捗率43%、事業進捗率76%（平成26年3月末時点）
平成24年度：千代原口地区立体交差 延長1.0km（2/2）完成済

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

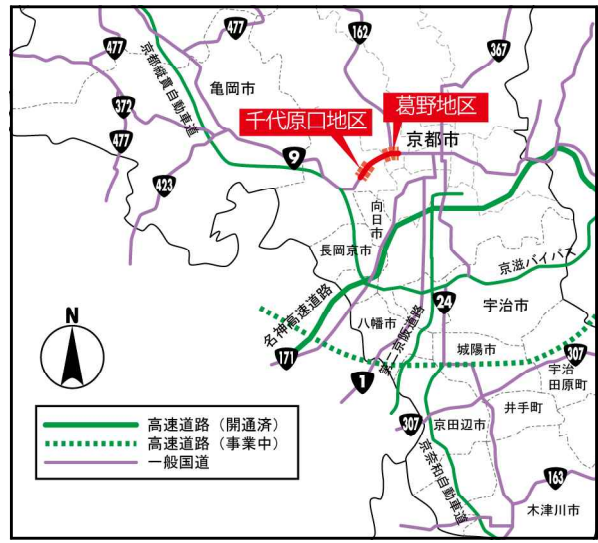
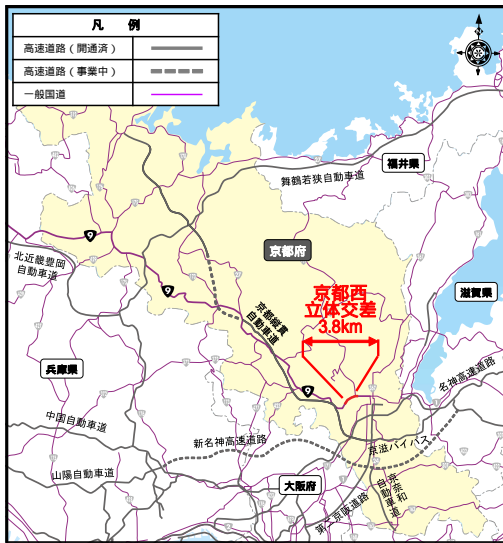
事業継続

対応方針決定の理由

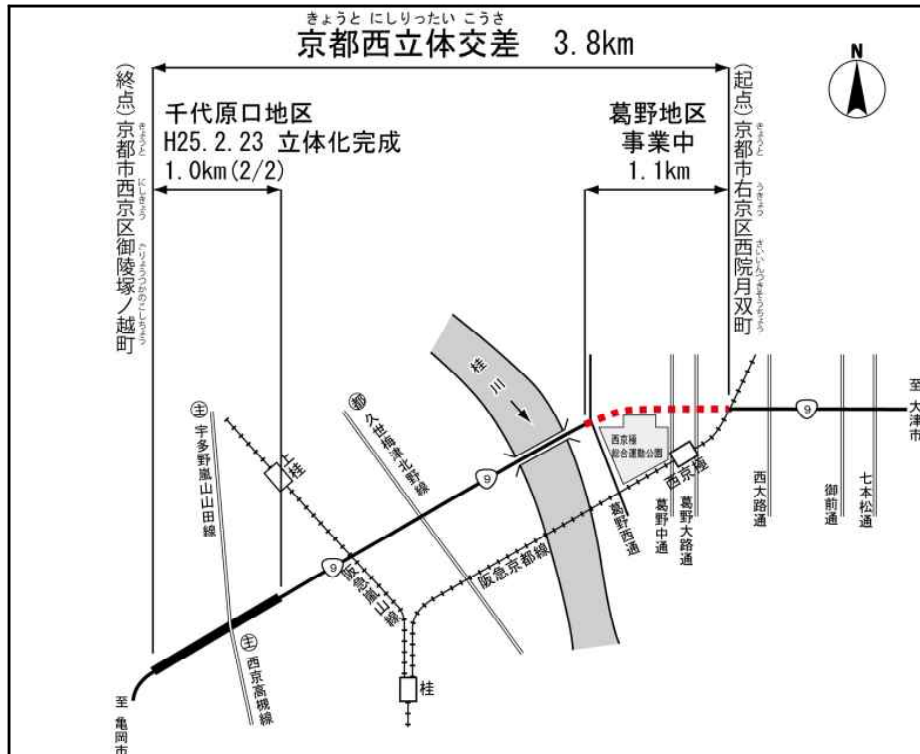
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。